

## 抄 録

演 題： 『歯科技工士の為の最新ビジネス研究』 ～やりがい搾取からゲーム理論まで～

演 者： 株式会社シーエス 24  
梁本昌功



### 概 略：

昨今、少子高齢化やデジタル化に伴い歯科技工士を取り巻く環境が大きく変わってきた。本講演では、RESAS 地域経済分析システム等の各種統計データの活用により、ラボをどの地域で開業すれば良いかというマイクロ戦略をはじめ、事業継承や最新の事業売却方法を紹介する。一方、労務管理においては「やりがい搾取」について紹介し、医療が抱える構造的な課題について問題提起することにより、経営者と従事者のナッシュ均衡（皆が幸せと感じる状態）を模索する。

次に、厚生労働省が発表した「保健医療 2035」の提言や総務省の「Society 5.0」科学技術基本計画で記された方針等を基に、これからの歯科技工士に必要なスキルは何かを探求し報告する。

結果として、歯科技工士には予防歯科や保存歯科分野への対応が課題であり、ゲーム理論から推測される行動経済学的な見地による「シグナリング効果」の活用が必要であることが分かった。さらに、標準化コードがレセコンに組み込まれつつあることから、歯科技工士もこれらの対策が急務となった。つまり技工情報をブラックボックス化できない時代が間もなくやってくることへの備えとして何が必要か、情報戦略と共に次世代の歯科技工ビジネスのあるべき姿を提言する。

尚、本講では、インターネットを利用した TimeLine 投稿を活用し、リアルタイムで演者への質問ができるシステムを活用する予定である。

# 歯科技工士も知っておきたい“歯と口の健康”

大阪府歯科技工士会

副会長 西 康文

学生時代、身体にとって‘入口’と‘出口’は大切な筈である。その入口である口腔の再建に携わる歯科技工士は面白そうだし、きっと役立つ仕事だろうとこの道を選びました。

1989年より厚生省（当時）と日本歯科医師会が推進している「8020運動」も開始当時7%程度でしたが現在達成率が50%をクリアしてきました。2011年に歯科口腔保健法が成立し、健康増進法の9分野（栄養・食生活、身体活動と運動、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール、歯の健康、糖尿病、循環器病、がん）にも謳われています。

最近では、‘歯と口の健康’の大切さが広く国民に認知されてきています。歯科医療従事者として歯科医、歯科衛生士、患者と同じ視点で理解し合い話し合える基本的知識を一緒に学んでみましょう。歯科疾患の代表であるう蝕と歯周病、それに纏わる唾液、免疫について、そして全身疾患に及ぼす影響について簡単なお話をさせていただきます。そして口腔内でしか判らないこと、顎模型だからより精確に判ることなど、互いに補い、話し合えるコミュニケーション力の一助になればよいと考えます。